

項目	3 こどもたちの豊かな人間性を育むための文化政策について
答弁者	スポーツ・文化観光部長
質問要旨	<p>こども家庭庁は様々な少子化対策を講じているが、厚生労働省が11月に公表した数値によると、2024年の出生数は70万人割れと予測されている。更に、発達障害や精神疾患と診断される子供たちや不登校、児童虐待の数も増加しているのが現状である。</p> <p>若い世代の子育ての経済的負担の軽減や、困難を感じている子供たちへの支援だけではなく、これからは、子供たちが、自ら困難と向き合い、それを克服できる様な人間力を育むことが必要であり、それには「文化芸術」との出会いが重要である。</p> <p>令和5年3月に閣議決定された「文化芸術推進基本計画」の前文の一部には、「文化芸術は、人々の創造性を育み、豊かな人間性を涵養するとともに、心豊かで多様性と活力のある社会を形成する源泉となるものである。また、人々のウェルビーイングの向上を図るためにも、文化芸術が果たすべき役割が増大している。」と記されている。文化芸術によって子供の五感が刺激され、歓びや感動、怒りや悲しみを味わうことは、子供のその後の人間形成に大きな力となり、自分を大切にすることを育てることになる。</p> <p>本県には、県立劇団SPACがあり、特に、舞台芸術公園の野外劇場や屋内ホールでは、他では体験できない、役者の体温と息と熱を間近で感じることができる。演劇の鑑賞や、ワークショップでの創作活動により得られる感動や喜びは、子供たちにとって何者にも代えがたい財産となる。また、地域で伝統的に受け継がれている行事への参加や民間のグループと連携した取組の充実など、子供たちが学校や地域において文化活動に参加、体験できる機会を拡充すべきと考える。</p> <p>そこで、子供の生きる力、豊かな人間性と多様な個性を育むため、今後どのように文化政策を展開していくのか、県の所見を伺う。</p>

<答弁内容>

こどもたちの豊かな人間性を育むための文化政策についてお答えいたします。

子供の頃から、地域社会や教育の場において、文化芸術に触れる機会を広げ、様々な感情を呼び起こし、豊かな感性を育むことは、生きがいや人生の意義など、将来にわたる持続的な幸福といったウェルビーイング実現の観点からも大変重要であります。

このため、県では、県内各地の学校を対象に、SPACや富士山静岡交響楽団などのプロオーケストラが、演劇やダンスのワークショップ、音楽公演を行っているほか、県立美術館などの文化施設による出張講座等を実施しております。

また、地域においては、三島市の伝統芸能「しゃぎり」を子供たちへ継承する活動等をアーツカウンシルを通じて支援しているほか、「ふじのくに子ども芸術大学」では、お祭りの和太鼓体験や、朗読で地域の歴史を学ぶ講座など、県内各地の12団体

が様々な取組を展開しております。

今後、子供たちの自主性を引き出す効果的な手法の導入や、市町と連携した文化施設の少ない地域に配慮した事業の実施などによる、従来の取組の更なる充実を図ることで、子供たちのウェルビーイングの向上を目指し、他者と共感し合うことができる、創造性に富んだ感性豊かな子供を育てまいります。

以上であります。